

## 会 議 録

会議名 (付属機関等名)	市立川西病院市民モニター会議(第1回)		
事務局(担当課)	総合政策部 病院改革推進課		
開催日時	令和元年7月4日(木)10時00分～		
開催場所	市立川西病院 2階 講義室		
出席者	委員	加門委員・後藤委員・熊手委員・大村委員・森寺委員・高須賀委員	
	その他	指定管理者 市立川西病院清水事務部長	
	事務局	総合政策部作田理事(病院改革推進担当)・総合政策部病院改革推進課清原課長・上原主査	
傍聴の可否	不可	傍聴者数	0名
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由	当会議の意見交換等の内容を公にすることにより、率直な意見の交換が不当に損なわれる恐れがあるため、傍聴を不可とする。		
会議次第	1. 開会あいさつ 2. 委員紹介 3. 会長及び副会長の選出 4. 市立川西病院の現状について(病院内の見学) 5. 市立川西病院に関する意見及び提案等に関する意見交換について 6. 今後の進め方について 7. その他		
会議結果	別紙会議経過のとおり(要旨)		

# 会議経過

## 1. 開会あいさつ

このたび、患者サービスの向上を目指して、皆さまとともにさらに受診しやすい病院をと、市長のマニフェストにも掲げていた、市民モニター制度の創設をさせていただいた。この会議と市のモニタリングおよび経営評価委員会とを連動させながら、よりよい病院経営となるよう進めていきたい。

先月6月の市議会にて、看護師の退職による看護基準の7対1から10対1への変更、4北病棟の休床について質問を受けたが、市としては、この措置は一時的なもので、年度内には回復を目指したいと考えている。また現状の入院外来の患者数であれば、患者の皆様には大きな影響を与えないと考えている。

本日は、現状説明と施設見学をしていただき、皆様には、利用者の視点から新病院の事も含めて、忌憚のないご意見をいただき、それを真摯に受け止めてまいりたい。

## 2. 委員紹介

東谷コミュニティ協議会 会長 熊手 輝秀  
北陵コミュニティ協議会 会長 加門 文男  
牧の台コミュニティ協議会 会長 後藤 芳昭  
緑台・陽明コミュニティ協議会 会長 大村 衣子  
川西市障害者団体連合会 副会長 森寺 美由紀  
川西市北部に総合病院の存続を求める会 共同代表 高須賀 俊之

## 3. 会長及び副会長の選出

会長：北陵コミュニティ協議会 会長 加門 文男  
副会長：牧の台コミュニティ協議会 会長 後藤 芳昭

### 会長あいさつ

これまで、川西市の医療もうまく進んでなかったが、これからは、川西市内で完結できる病院として、利用者も協力していかなくてはと思っている。  
住んでよかった川西市と言える、医療が充実した町にしていきたい。

## 4. 市立川西病院の現状について（患者数の状況等の説明後、病院内の見学）

◎病院内5階から始め、指定管理者及び病棟師長等から簡単な各病棟の説明を行う。

### 5階北病棟（緩和ケア病棟）

床（茶系色）・壁クロス等を家庭に居るような雰囲気にするため、色や材質を工夫し、

床は物を落としても響かないようにしている。

広い談話室があり、毎月ここで、季節のイベント等を行う。（ベッドも搬入できる）他に、家族控室、昼の部屋があり、最後の時間まで、家族と一緒に過ごせるよう配慮されている。

#### **5 南病棟（平成30年11月から地域包括ケア病棟）**

急性期を脱した患者が、自宅に帰る準備を整えたり、リハビリを行ったりと、自宅に帰るための準備期間として看護を行っている。退院後、施設に入所や自宅へ帰る方、入退院を繰り返す方など様々な方が利用している。定期的に、医師の診察を受け、ご家族の介護の不安軽減のためにも、短期間の入院をするレスパイト入院も行っている。

#### **4 北病棟**・・・休床

#### **4 南病棟**

急性期病棟、内科・外科系、整形外科・泌尿器科などの患者を受け入れている。手術後の患者が多いので、一番忙しい病棟になる。主に男性患者が多い、循環器内科で心臓カテーテル処置をしている患者は、女性患者も含まれる。

ほぼ満床状態で、病状が落ち着いた患者や退院が近い患者は、地域包括ケア病棟へ転棟している。本音は、看護師をもう1人、2人ほしい。看護基準が7対1から10対1になり、看護師には、患者さんともっと話をして十分なコミュニケーションを取りたい等のジレンマがある。

#### **3 南病棟**

小児科とすべての診療科があり、ここは、平成21年にリニューアルした。救急入院受け入れ、および手術前患者の受け入れも行っている。午前中より、午後に入院患者が入ってくるので忙しくなる。

#### **3 北病棟**

産婦人科の出産があるので、女性患者が多い。平成25年にリニューアルし、出産の方は、別扉の部屋がある。比較的落ち着いた病棟。急性期の女性病棟でもある。

3階は、小児科があるので、待合室に、こどものプレイルームがある。各階、待合室は共有で使用、病院サポーター（ボランティア）の絵画も展示している。

#### **2階 診療科**

小児科・眼科・泌尿器科・耳鼻いんこう科・脳神経外科・産婦人科・検査科・手術棟

1階に比べ、待合は、比較的落ち着いている。中央採血室は、2～3年前に1ヵ所に集中して採血する場所として設置。耳鼻いんこう科は、応援医師で対応。脳神経外科は、他で治療し経過観察の患者が来院。産婦人科は、男性医師と今年から女性医師が2名増えた。

#### **1階 診療科**

内科・外科・整形外科・放射線科・検査科・薬剤科・リハビリテーション科・患者サ

## ポータルセンター（入退院支援センター・地域医療連携室）・受付等

放射線科は、導線として内科や外科から近い配置になっており、新病院も同様の予定。患者支援サポートセンターは、入退院が決まった患者が利用する入退院支援センターと開業医との連携をする地域医療連携室がある。病院サポーターは外来受診、病棟での傾聴、敷地内での花壇整備等を支援している。

## 5. 市立川西病院に関する意見及び提案等に関する意見交換について

### ①病院見学をして気が付いた点

委員：患者集計表は、もらったが、人間ドックの実績データはあるか。

事務局：次回、資料を提出する。

委員：看護師の募集が出ていたが、身分は協和会の職員か？市の職員か？

事務局：指定管理者の職員で、協和会が募集している。

委員：賃金の差はないのか。

事務局：現在、病院職員は、協和会の職員である。旧市職であった職員は、今後3年余りは、給与差額の保障をする。4月以降採用されている職員は、協和会の職員であるので、差額保障はない。

委員：この度、初めて病院内を見学した。照明が暗い。特に南北の病棟が繋がっている廊下がかなり暗く、気持ちも暗くなる。

病院案内の行先がすぐに分かりにくいので、院内の床にラインを引いてそれをたどれば、目的の場所に着くといような形もよいのではないか。いずれも、お金のかからない方法を考えてほしい。

委員：地域包括ケア病棟等について、初めて見学し、知った事が多い、色々な設備や状況を聞いた、手厚いケアをされているので、もっとPRして、皆に知ってもらう方がよいのではないか。

### ②来院した患者が円滑に診察を受けることができるか。

指定管理者：地域医療支援病院として、相談窓口を設置することになっている。当院では、医療コンシェルジュや外来受診の支援として病院サポーター（ボランティア）を配置し、お支払いなら医事課へ、医療上でのトラブルなどは医療安全管理室へ等の案内をしている。

採血で上手く針をさして検査したとしても、痛みを訴える人もいるが、そういう

場合でも、医師が再度診察し、問題ないか確認したうえで帰宅していただいている。

また、退院先の相談については、地域医療連携室や入退院支援センターを利用していただいている。川西能勢口近辺に在住の方が、一旦、治療が終わって、通院中の場合、自宅近くの医院の紹介（逆紹介）もしている。そして、また具合が悪くなったりすれば、その医院から当院を紹介してもらうという形をとっている。

委員：7対1が10対1になったが、看護師に負担がかかっていると思われるが、その実態はどうなのか？

**指定管理者：**4月は7対1の看護体制であったのが、5月に10対1に変更した。現在、整形外科の常勤医師が1名になり、手術後の経過観察の患者が減っていることから急性期の患者が減少している。看護体制の変更により、看護師の負担は多少増えているが、患者に大きな影響がでているわけではないと考えている。

**委員：**もう少し様子を見る必要はあるだろうが、看護師の声をしっかりと受け止めてもらいたい。

**指定管理者：**看護師からも早く7対1に戻して患者さんの看護にあたりたいと聞いている。救急が減っているわけではないので、早い段階で戻して行きたい。

**事務局：**指定管理者に移行して、慌ただしい4月を乗り越え、看護師全員で話をして本日説明した体制を作ってきている。外来や手術室の看護師が、自主的に病棟へ応援に行っていると聞いている。

**委員：**先ほどの病院見学で、看護師からの生の声を聞いた。看護現場は懸命に頑張っているが、それにいつまでも甘えることなく、何等かの体制をとってあげるようにしてほしい。それが、患者に返ってくると思う。今の気持ちを忘れずに、頑張りたい。現場の声を聞いて、安心した。

委員：病院の照明は暗いが、病院の雰囲気は以前と違い、活気があるように感じる。

**事務局：**そのことは事務局としても感じている。おそらく3月までは、指定管理者移行に伴い、まとまった職員が病院を離れていくなど、不安な気持ちがあったと思う。4月以降様々な困難を乗り越えることで、職員同志の絆も深まり、頑張っていくというブレない気持ちが沸いてきたのではないかと、少し前に看護部長とも話していた。

**委員：**いつまでこのモチベーションを維持できるかが重要である。職員の頑張りを生かすよう努力してほしい。そして市立川西病院に行きたいと言われるような、開業医から多くの患者を紹介してもらえそうな評判の病院にしていきたい。

委員：各科、患者さんの待合場所があつて、待ち合いしやすいようになっていた。

指定管理者：各待合に、車いすも待ち合いできるよう想定し、スペースを設けている。

### ③その他（ホームページについて必要な情報が掲載されているか。など）

指定管理者：これまで、PRの指摘をいただいている。4月以降、ホームページについて新しく変更していく予定であったが、いまだに市から指定管理者移行にかかる前の情報が残っており、現在、随時更新をかけている。

本日皆様から評価をいただいた地域包括ケア病棟や緩和ケア病棟のことなども改めて広報していきたいと思う。また、直接お伝えする手段として、出前講座なども利用していきたい。

委員：市内の民間病院は、診療内容などの情報が郵送されてくるなど、色々な事をしている。また、各地域コミュニティの福祉ネットワーク会員になって、地域に溶け込んでいる。そういうこともやってみたら「病院も頑張つて変わろうとしている」と思ってもらえるのではないか。

指定管理者：ご協力させてもらえることがあるか検討していく。

**まとめ** いただいたご意見、ご提案の中で、すぐ改善できることは明日からでも取り組んでいただきたい。次回、その確認もさせていただくのでよろしくお願いいたします。

## 6. 今後の進め方について

第2回、第3回の日程調整表を、提出していただき開催日を決定する。

次回の内容は、患者アンケートの集計結果について